

# 本を選ぶ

NO.250 2006年(平成18年)3月20日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂5-20-504 TEL=03-3235-6168

●〈あんでな〉ジャクージ

●図書館のうちそと 第19回

●『良心の領界を守ってください・・・』

●子どもの本の時間 42

●ドイル書誌調査余談 33

## あんでな

### ジャクージ

世の中は澄むと濁るで大違い、ハケに毛がありハゲに毛はなし。まあ、これほど大違いとまでいかずとも、濁点のあるなしが編集者泣かせになることも多い。図書館にお勤めの博覧強記の方々に、こんな瑣末なことを書き連ねるのは汗顔の至りだが、地方の自費出版編集者が実際に当面したカタカナ問題をご紹介しよう。

温泉の多い静岡県は気泡風呂ばやりである。9割以上がジャグジーと表記している。もともとジャクージという人名だそうだが、使用頻度からいって前者の圧勝だから当方に異存はない。しかし同じページに二つの施設を紹介する機会があって、二つの表記が並んだ。こうなると編集者は、まるで目にゴミが入ったみたいに気にしだす。蛇口や映画「バグジー」の連想か。いや、商標を承知でニアミスしようとした仕掛け人がいたのか…。

リラクゼーションもよく出る言葉で、これはゼをセに文句なく書き換える。エキジビジョンはフランス風にいえば近いかもしれないが、濁点だけで気になる。冬季五輪で英語読みのエキシビジョンが連呼されて、今後はこちらが市民権を得そうだから助かる。

スポーツ関連ではどうか。シェアなバンド作戦、ナショナルカーブなどの表現が結構ある。これは黙って「シェアなバンド」「ナチュラル」と正しておこう。本のタイトルで「孤高のラガー」という

ような場合はどうか。末尾にERが付いていても、ラガーはサッカーと同じく競技の名であって選手を指すわけではない。文武両道のスポーツだから博識のOBも多い。したがって、ここは字数が増えても「ラガーマン」にしましょうと、著者と相談することになる。

コミュニケーション、シュミレーションはユの位置が1字ずれているだけの誤りだが、相当なインテリでも犯す。ファンタジックな朝、ムーディーな夜、などの表現ももう死語にしたい。前者は和製語、後者は「憂うつな」の意味だからだ。

グロッキー、ハンドバック、ジャンパー、テトラポット、エンターティナー、アタッシュケースはそれぞれどこか1字が間違っているが、誰も迷惑するわけでないし、許容範囲だろう。ティーバック、ピーチサンダルなどは、ふるさと産品なので「バッグ」「ピーチ」と直しておきたい。

校正段階で、こういう小さな齟齬(そご)を瞬時にさばいてゆくのが編集者の仕事だが、若いスタッフなどは判断に迷って、しばしば泥つぽにはまってしまう。刻々とデッドライン(締め切り)が迫って汗をかく。

「デッドラインってのは、それを越えると殺されるっていう昔の刑務所隠語だそうだよ」

先輩の声が飛ぶ。

「迷ったら、原点に帰る。この表現で事実誤認が出ないか、迷惑する人が出ないかだな。誰も君の命まで取ろうとは思わないよ」

(梶 邦夫：静岡新聞社出版局)

坪野 忠

## 合併ウォッチング

ふと思いついて、全国市町村の合併進行状況をウォッチングし始めてから4年目になる。私が定年まで勤務した長崎県の森山町が諫早市など1市4町と合併することになったのがきっかけだ。森山町に在職中に「地方分権一括法」が成立し、いつともなく囁かれ始めた合併の話。中には合併を主張する町会議員も現れたが、役場内や町の人たちの間での切迫感はあまりなかった。私自身は、相手市町の施策から考えると恐らく図書館の地盤沈下は避けられない気がして内心合併には反対だった。合併して図書館事情が悪くなった事例しか知らなかったせいでもある。たとえば、合併前は人口2万人に4館あった旧・東京都下五日市町立図書館は、秋川市と合併してあきる野市になったが5年目には図書館費総額予算が1/4に減らされて利用が半減した。合併前に2町から出ていた図書館要望に対して、「中途半端なものを2つ作るより、大規模なものを1つ」作って管理運営を外部委託した兵庫県篠山市。「昭和の大合併」で100を超える村立図書館が消えていったことなどである。実際に森山町で合併協議が始まったのは私の退職後だったが、かなり気になっていたののために調べてみた都道府県ごとの合併進行状況は長崎県が国内でも先行ペースだった。「今は79(市町村)だが、多分20いくつになるだろう」と県庁勤務の友人が教えてくれた。当時、県内の図書館を持つ市町はその内の30%。森山町立は図書館事情の悪い県内で他市町の住民にもサービスしていたが、予算や職員の体力面でも限界に近かったから、早く近隣の未設置市町が図書館を作らないかとつねづね思っていた。ただ、合併が図書館にとって追い風になるとはどうしても考えられなかったのだ。

## 前途は……???

「平成の大合併」も、合併特例法(旧法)の適用期限が切れる今年3月31日をもってひとつの節目を迎える。総務省によれば、H11年3月31日に3,232

あった市町村が1,821になる(H11「合併相談室」)。7年の間に1,441の自治体が消える。43.7%の減少率だ。この内、市は670から777に増えるが、町が1994から846に、村は568から198に減る。総務省の数字を単純計算すれば、合併後は56%の国土面積に88%の「市民」(1km<sup>2</sup>当りの人口密度505人)が、同じく37%に10%の「町民」(人口密度93人)が、そして7%に2%の「村民」(人口密度39人)が暮らすことになる。町と村が確実に減って、大規模自治体に再編されて行く。もともと何をもって大規模なのか、元々今回の合併が目指す「基礎自治体」の姿自体が曖昧らしいが。

ここまでの合併経過を都道府県単位で見るとおおむね「西高東低」傾向。市町村数が7割以上減少したのが広島県(86→23)、愛媛県(70→20)、長崎県(79→23)の3県で、6割以上減は秋田、新潟、島根、岡山、山口、香川、大分の各県。少ないのは東京都(1市減)、大阪府(1市1町減)、神奈川県(2市2町減)などの大都市圏。合併件数は、比較的財政力の乏しい地方の自治体ほど多い。

当然だが合併で1自治体の面積は広がる。が、その割に人口が少ない。大都市圏を除けば人口減の自治体同士の合併が主流だとしてもとにかく面積が広い。10市町村が合併した岐阜県高山市は、香川県の面積1,800km<sup>2</sup>を上回る2,100km<sup>2</sup>超の行政区域になったが人口は10万人足らず。このほか1千km<sup>2</sup>以上が北海道の7市町をはじめ、秋田3、静岡県2など11道県で21市町誕生する。その内、政令指定都市を目指した静岡市や浜松市などを除けば大半が人口1~2万人、多くても10万程度。今後は地域内格差を抱えた過疎自治体が増えていくことになる。

同一自治体で「飛び地」や離島が増えているのも特徴。いわゆる飛び地は、合併協議が進む中で住民感情や経済圏、文化、歴史、行政上の利害関係などで一部自治体が離脱したケースが多いようだ。目下、北海道3、青森県3、群馬県2、鹿児島

島県2など12道県12市町だが、多分第2幕で変動するかも知れない。離島の場合は、島同士や本土と島との合併ケース。長崎県の7市町を筆頭に、広島4、愛媛3、福岡1など7県の18市町ですべて西日本である。中でも東シナ海のはるか洋上の甌島（上甌村・下甌村）は昨年10月に川内市と合併して薩摩川内市となった。五島の宇久島（宇久町）も今月末に佐世保市と合併する。広大な面積に少ない人口、飛び地、離島…、これだけでも地方行政はかなり苦勞するに違いない。

### 図書館は増えている？

よし悪しを別にして、今回の合併状況だけを追いかけていると色々なことが見えて来て正直なところ面白い。ただ、この混沌の中で肝心の図書館はどうなっているか。またどうなりそうなのかも知りたかった。インターネットで合併に名乗りを上げている市町村名を県別にリストアップし、あわせて図書館の有無を一覧表にしてみた。多い時には、正式に合併を進めている自治体で構成する法定合併協議会が350を超えたが、その内図書館未設置同士の組合せは76組に上った。新生の自治体に果たして図書館ができるかどうか。また、たとえば新・高山市は、元々10市町の中で図書館があったのは1市1村。10市町村が合併した佐渡で図書館があったのは3町だけ。合併後の施策で図書館は良くなるか悪くなるか。同時進行の形で図書館問題研究会（略称「図問研」）のホームページに一覧表を掲載依頼して図書館に関する情報提供を期待した。国や関係機関のホームページで合併の動向をチェックし、日本図書館協会や図問研の資料、会員情報などで図書館の動きを修正して一覧表を更新した。こんな時に頼れるのは友人だ。年賀状や季節の便りで知らせてくれる図書館の計画や動向が助けになった。そんな情報をもとに自治体のホームページを覗いた。直接電話で問い合わせると「〇月〇日に開館する予定、（または開館した）」ことを教えてくれた。最近、三重県桑名市や新潟市、愛知県稲沢市・日進市のように図書館計画をホームページで公表するところも出て来た。

ただ、不思議なのは各地の合併動向があまり全国ニュースに登場しないことだ。図書館は多分まだマイナーなネタだろうから記事にならないのは分かる。だが、市町村合併は住民生活の基盤である市町村行政の根幹問題のはずだ。実際にあちこちで住民投票が行われ、首長がリコールされて辞職し、議会が解散しているにも拘らず何故かマスコミに登場する頻度が少ない。

昨年11月、私は思いがけなく日経新聞記者から取材された。「図問研のホームページの合併動向一覧表を見て面白かった」らしい。前の晩頑張って更新した一覧表と集めた資料を持って取材を受けた。「私は、この表を作ってみて今回の市町村合併と図書館の先行きには必ずしも楽観的ではない」ことも付け加えた。数日後（11月13日）の記事の見出しは「公立図書館 なぜ増える？ 市町村合併で駆け込み 国の財政支接受け大型化」とあった。3年間で150ヵ所増えたという文部科学省や日本図書館協会のデータ。日本では施設数が不足で求める住民の声が多いこと。合併前に作っておかねばという行政の危機感と国の合併特例債や県の補助金の有効利用によること。設立後の運営が課題と結んであった。正直なところ、私はもっと土台になっている市町村合併の背景に踏み込んで欲しかった。記事で取り上げた各地で図書館建設費に充てている合併特例債は本当に満額保証されるのか。特例債は自治体の借金ながら国が7割までは返済の面倒を見てくれることになっているが、その返済に充てるはずの国の地方交付税制度自体がすでに大赤字と言われる。実際、合併当初図書館や体育館を作る計画を進めていた佐渡市は、地方交付税が削減されていることで将来の返済負担が不安になって計画を先送りし（菅沼栄一郎『村が消えた』祥伝社新書）、徳島県吉野川市も新市計画の新館建設を既存施設の活用にトーンダウンした。昨年7月7日の「毎日新聞」社説は「町村合併への優遇策として認められる地方債の特例枠の凍結」を提言している。元々追いつけたのは国の方、梯子だけは外さぬようお願いしたいものだ。

（つぼの ただし：元・森山町立図書館）

# 「良心の領界を守ってください・・・」 —スーザン・ソントグ

Susan Sontag : January 16, 1933 - December 28, 2004

本田 英郎

2004年12月28日、その日、東京は雪が降っていました。浅田彰さんと木幡和枝さんからほぼ同時に連絡が入り、スーザン・ソントグの最期を知りました。

Dear Susan Sontag, 私は、9.11の余韻醒めやらぬ2002年4月27日、東京であなたに会いました。そのとき私は、9.11以降のあなたの言説を中心に『この時代に想う テロへの眼差し』(NTT出版)という書物をまとめたばかりでした。9.11の悲劇の直後、あなたが雑誌『ニューヨーカー』に書いたエッセイが、テロリスト擁護だとアメリカ国内で大きな誤解と批判を浴びるなか、大江健三郎氏との往復書簡など、それ以前のあなたの言葉の<真実>を見せることで、あなたの視界の広さ、多様性、事態を単純化しない強さと柔らかさ、を読者に感じてもらいたいと考えていました。

文学を書くものの当然の義務であると言わんばかりに「lonely 孤独」を愛し、矛盾/葛藤/相克/混濁をまったく透明な眼で見据えた、凛々しい、そしてあくまでスタイリッシュな女性でした。あなたは、文学者であり、批評家であり、知識人であり、母親であり、そして何よりひとりの人間であり、女性でありました。

相克する感情、混濁する精神の苦悩に、至上の悦びを見だし、世界に起こっている出来事そのものに常に注意深い眼差しを注いだスーザン・ソントグ。旅を愛し、古今東西の文学を愛し、日本映画を愛し(彼女は原節子の大的ファンだった)、お寿司を愛し、他者の苦痛には声をあげ、自らの姿勢を実践(サラエボで演劇を演出したのは有名な話です)を通じて明らかにしていました。

「さまざまな現実を描写する、それも作家の仕事だ。汚れた現実、歓喜の現実。文学が供する叡智の精髓は、何が起きていようと、つねに、それ以外にも起きていることがある、という認識を助けることだ。

「他にも何か」がある、という想い。自分が知らな

い場所で、いまだ知らない悲劇が起こっているかもしれない、という想いが「私の頭を離れない」、そうソントグは書きます。その姿勢に、私をはじめ世界中でどれだけのひとたちが心を震わせたことでしょう。

彼女と会った翌日、都内でシンポジウムを行ないました。木幡さん、浅田さんのほか、建築家の磯崎新さん、批評家の姜尚中さん、そして、長野県知事の田中康夫さんが飛び入りで参加くださり、ソントグを囲みまし

た。シンポジウムの最後で、ソントグはこう話します。

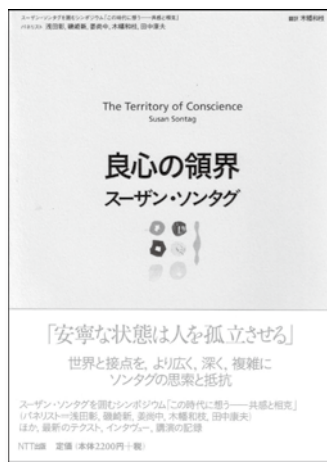
「今日の話の最後の部分で、誰かがソリテュード(孤立、孤独)とソリダリティ(連帯)との語呂合わせをして語っていましたが、田中さんでしたか。ソリテュードは必要です。内面生活としての孤独。ある意味で、そこにその人がいるのです。自分の内部に、そして、さらに深い場所へ行くのです。でも、連帯も必要です。孤独は連帯を制限し、連帯は孤独を墮落させます。ときによって、一方の必要のほうが他方

よりも強くなり、その入れ替わりが繰り返されるわけです。じゅうぶんに人間としての生き方をするには、孤独も連帯も永い距離をもつべきで、私的人間関係でも公的行動でも、それを可能にする方法を見つけなければなりません」(引用部、中略あり)。

浅田さんの最後の言葉が、すべてを物語っています。「エネルギーと完璧なオネスティに対する称賛をこめて、拍手を送りたいと思います。どうもありがとうございました」。

スーザン・ソントグさんへ、あなたと出逢い、幾つかのテキスト、インタビュー、講演を、自分の手で、この日本だけのオリジナルな2冊の書物として編めた幸せに、心から、感謝の念を捧げます。書名のとおり、「良心の領界」は、世界中の読者の内面へと引き継がれてゆくことでしょう。安らかに！

(ほんだ ひでお: NTT出版)



『良心の領界』スーザン・ソントグ 著/木幡和枝 訳/四六判/294頁/本体価:2200円 ISBN4-7571-4069-X/NTT出版

# 子どもの本の時間 42

## 絵本の中のさまざまな職業②

職業によって、服装や道具は実にさまざまです。その道具に注目し、絵本を何冊か集めてみました。

まずは『かざみどりのながーいいちにち』（作・絵 フィリップ・デュマ／訳 くりつぼ ようこ 新世研 1999年）に登場するたくさんの職業人。あるとき、教会の塔の上のかざみどりが、下の世界を見たいと、塔の上から降り立ちます。歓迎してくれると思っていた神父さんは、食事の真っ最中で、「神からの授かりもの」とフォークを手に追いかけてきました。慌てて逃げると、次に出くわした電器屋さんがドライバーを持って追いかけてくる。更に逃げると村の役人、と次々に違う職業の人が加わって大騒ぎとなるのです。左ページにどんどん増える追い手、右ページに次の追い手の仕事場での姿（まさにかざみどりがとびこんでしまったところの情景）が描かれて展開します。たくさんの道具や商品が並ぶ工房や店先に座る靴職人や金物屋、のどかな田園で鎌をふる道路工夫など、働く人の姿を、洒脱なタッチで描き出しています。まさに、フランスのとある町を巡って歩いたような、社会の活気が伝わってくる絵本です。

『アイスクリーム／かんながかんなをつくったはなし』（文 マルシャーク／絵 レーベデフ／訳 うちだりさく 岩波書店 1978年）の后者のお話は、年とった「かんな」が、仲間の「のみ」や「のこぎり」などの道具たちの力を借りてあとつぎをつくるというものです。そこに人の手は介在せず、道具が自律的に働く様子が描かれます。リズムカルな詩に、百科事典の中の図のように簡潔な絵が、かえって新鮮味を感じさせます。マルシャークやレーベデフが活躍したロシアの1920～30年代には、働く人々を主人公にした絵本や、モノ作りをテーマにした絵本が数多く作られました。それらの、美しいデザインの本は、まさに見ることや知ることの喜びを与えてくれ、興味深いものです。

さらに、かこさとし『まさかりどんがさあたいへん』（小峰書店 1996年）も、道具たちが集まっ

## 五味 遊由

てモノを作る筋立てですが、こちらにはぎやかで実に「たいへん」な絵本です。大きい「まさかりどん」がやってきて、大きな太い木を倒してしまったかと思うやいなや、「よきどん」やら「とんかちちゃん」やら、次から次へと道具が現れて、どんどん自分の仕事をこなし、あつという間にイスとピアノとロボットとドレスを作ります。そして、そのロボットがドレスを着てピアノを演奏し、道具たちが拍手喝采する結末は何とも豪華なものです。リズムカルな言葉をテンポよく読み上げてゆくと、次第に気分が高揚し、まるで早物語や阿呆陀羅経を唱える弁士になったような心持です。モノが作られてゆく上での、道具の活躍ぶりを知ることが出来るのはもちろん、何かエネルギーが集約されてゆくような感覚を味わえる絵本です。

\*

こうした、道具が主人公となったお話は、古くから世界各地で伝承されてきたようです。はっきりとした特徴を持っている道具は、個性的なキャラクターとなりやすく、語り手にとっては絶好の材料であったに違いありません。韓国の古い物語をもとに創作されたという、『あかてぬぐいのおくさんと7人のなかま』（文・絵 イ ヨンギョン／訳 かみや にじ 福音館書店 1999年）にも、道具の精とでも呼びたいかわいらしい道具たちが登場します。お針のとても上手な「あかてぬぐいのおくさん」の七つの針道具、ものさし、はさみ、のしごてなどが、おくさんのうたたねの間に、誰がいちばん役に立ち、大事であるかを口々に言い争います。道具たちは、愛らしい女性の姿に擬人化され、「はさみおじょうさん」、「ゆびぬきばあちゃん」、「ひのしねえや」などと、呼び名ひとつをとっても、ユニークです。やがて、結束を固めたおくさんと道具たちは、次々に美しい品々を作り出します。人と道具との関係についても、少し考えさせられるお話です。

（ごみ ゆう：児童書研究家）

### 新井 清司

本稿は、日本においてコナン・ドイル、また彼が書いた小説、シャーロック・ホームズなどの物語がどのように移入されてきたのか、それを探るために関連文献を探索している。その中で、ジャーナリストで英文学者の山縣五十雄が、若き日に第一高等中学校の恩師ジェームズ・マードックからドイルの名前を聞かされたという回想を残していたことから、マードックの日本での足跡について調べている。日本で最も早い時期の紹介と思われるので、山縣が「ドイル」の名前を聞いたとされる1890年から1891年前後の時期について詳しく見ている。マードックが日本で教師となったことが、学生である山縣とかかわるきっかけとなったので、これまでマードックの初来日の時期や経過などについて探索を試みている。今回は、日本で教師となるきっかけが「大学時代の友人」が日本にいたこととされているため、この友人の可能性があるチャールズ・グラハム・ガードナーについて触れた。ところが、この中にミスがあったので訂正したい。大分県立図書館に残されているマードック、ガードナーの履歴に基づいて推論したが、マードックがオックスフォード大学にいた時期が1882年となっているので、このまま引用してしまった。実は、マードックがオックスフォード大学に在籍したのは1879年であった。残されていた資料は、本人が語った履歴を間違えて記録していたらしい。マードックのスコットランド訛りが強かったので聞き取りができなかったのではないかと。とにかく、ガードナーとマードックの接点がなくなってしまった。「大学の友人」については振り出しに戻ってしまった。

ここで、オーストラリアのマードック研究者、D・C・S・シソンの意見を見ておきたい。シソンはマードックの『日本史』の復刻版に、その生涯を記述している (Introduction: James Murdoch (1856-1921) in History of Japan)。それによる

とマードックが日本に来ることになった理由として、当時、オーストラリアでは日本への旅行がポピュラーになっていたことを挙げている。例えば、マードックが特派員となっていた「ブーメラン」紙の有力な支援者であったトマス・フィニーは同じ頃日本へ旅行している。また、やはり「ブーメラン」紙に記事を書いていたマードックの友人、フランシス・アダムスはマードックより1年早く日本に旅行していた。そして多分、マードックは友人であるアダムスから日本への旅のアイデアを得ていたのではないかと推論している。アダムスは1862年生まれ、マードックより8歳若い。詩人、小説家、コメンテーターでもあった (Australian Dictionary of Biography)。

オーストラリア側から見ると、マードックの日本への旅は日本への関心が高まっていた当時の時代を反映したものといえるのかもしれない。だが、日本の側から考えると、マードックは単に日本に関心があっただけではいいのではないかとも思える。「大学の友人」の件も含め解明したい今後の課題である。

さて、1888年10月30日に日本郵船の横浜丸で日本を離れてオーストラリアに帰ったマードックについての情報は残っていない。でも日本を離れる前に、翌年の1889年9月から第一高等中学校で歴史の教師となる約束を取り付けていたという話はある。とにかく、オーストラリアで身辺を整理して準備を整えたマードックは、8歳になる息子ケネスを伴って、初来日と同じドイツ船で再び来日を果たし横浜に上陸した。再来日の期日は、1889年7月19日であった。これまでの日本の文献では7月26日となっているが、Japan Weekly Mailによれば7月19日である。シソンの調査の方が正しいようだ。

マードックの今回の来日の目的は、先に触れたように第一高等中学校で歴史を教えることであった。当時の学校は9月11日が始まりとなっていた。7月に来日してまずは住まいを探ることになるが、マードックが住んだのはどこなのか、それについては次回に探索してみたいと思う。

(あらい きよし: 日本シャーロック・ホームズ協会会員)

「戦争」をささげたシステムを詳述する。四六判 / 4200円

**日本住居史** 小沢朝江・水沼淑子著  
四六判 / 3990円

**日本軍事史** 高橋典幸・山田邦明著  
保谷徹・ノ瀬俊也著

価格 東京都文京区本郷七丁目一八  
税込 電話03-3138-3191-151  
吉川弘文館

知っておきたい日本の民俗、七〇〇余を精選！

**精選日本民俗辞典**

福田アジオ・神田より子・新谷尚紀・中込睦子・湯川洋司・渡邊欣雄編  
民俗学の基本用語七〇〇余を精選し、平易に解説。社会のあり方から日常生活まで幅広い項目を収め、日本の「いま」を読み解く学問としての民俗学を一冊にまとめた、初学者にも最適な辞典。図書館必備菊判 / 6300円(内容案内)送呈

**異文化コミュニケーションを考える**

50歳英語教師の米国留学体験から 堀口君子

中学校の英語教師である著者が、50歳でアメリカに修士留学。米国で経験した悲喜こもごも、ホームシック、人との出会いや別れ…。異文化研究や外国語教育、生涯教育等に携わる方、留学を予定する人にもお勧めの書！

46判・並製・ISBN4-905849-40-3・定価：2100円(税込)



**めぐりあいのよろこび** 松本梶丸・青山俊薫・荒崎良徳

宗旨・宗派をこえた3人説法！テレビ番組や多数の著書などで知られる僧侶たちが、仏法を分かりやすく語る。

46判・並製・ISBN4-905849-41-1・定価：1050円(税込)

慧文社 〒174-0063 東京都板橋区前野町4-49-3  
TEL03-5392-6069 FAX03-5392-6078

**地球環境保全への途** ◎アジアからのメッセージ

寺西俊一・大島堅一・井上真編 アジアが環境保全への途を拓くか否かは、人類の未来を大きく左右する。深刻な環境問題の構造を具体的に明らかにし、今後を展望する。(有斐閣選書 1310五円)

**小売業の外部性とまちづくり** A5判 三七八〇円

石原武政著 小売業の外部性に着目し、店舗、街並み、集積へと議論を展開していく。商業論の第一人者が「まちづくり商業論」を構想する渾身作。

\*価格は税込  
東京都千代田区神田保町2  
電話03-36265681  
http://www.yunkaku.co.jp/ 有斐閣

中央公論美術出版 新刊書

**シトー会建築のプロポーション** 西田雅嗣 著

フランス中世のシトー会教会堂20件の詳細な実測データ・実測図を基に、尺度・寸法という欧米においても十分に研究されてはいない視点を持ち込み、現代の建築に対しても多くの示唆を含みうる中世建築のプロポーションの具体的な姿を論じる。

ISBN4-8055-0488-9

A4判上製函入 本文520頁  
定価34,650円(本体33,000円+税)

中央公論美術出版 http://www.chukobi.co.jp/  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7 TEL03-3561-5993 FAX03-3561-5834

**発達と障害を**

**考える本** 全12巻 内山登紀夫監修  
AB判・平均56頁・各1890円

① **自閉症** のおともだち

② **アスペルガー症候群** [高機能自閉症]のおともだち

こんな本が欲しい！  
…との保護者、現場の先生方の声から生まれた絵本です。

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町1  
TEL075-581-0296 ※価格税込

**AUTM技術移転実践マニュアル**  
AUTM(米国大学技術管理者協会)編  
有限責任中間法人大学技術移転協議会・社団法人発明協会 監訳  
AUTM技術移転実践マニュアル翻訳編集委員会 編訳  
B5判・2分冊・函入/1478頁/定価(税込)105,000円

**文明への視座** 東海大学文明研究所 編/四六判/330頁/定価(税込)2,940円

**日本列島の自然史** 国立科学博物館叢書-4  
国立科学博物館 編/B5判/352頁/定価(税込)2,940円

**日本産鉱物型録** 国立科学博物館叢書-5  
松原 聰・宮脇律郎 著/B5判/162頁/定価(税込)2,520円

東海大学出版会  
〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名3-10-35 電話0463(79)3921  
販商品管理センター 電話048(447)8570  
WebPR誌WebTOKAI公開中 http://www.press.tokai.ac.jp/

# はじめまして、 NTT出版です。

本日、小社の「ブックガイド2006年版」をお届けいたします。  
貴館の蔵書および選書の一助になれば幸甚です。  
今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。


**NTT出版**

〒153-8928  
東京都目黒区下目黒1-8-1 アルコタワー11階  
Tel.03-5434-1010 <http://www.nttpub.co.jp>

『豪華日記』三部作の著者が初めて語る半生  
アゴタクリストフ 堀茂樹訳 ●1470円  
◎アゴタ・クリストフ自伝◎

名手柴田元幸が自己の訳書のベスト・ワンに挙げる『シカゴ育ち』の著者による最新短篇集。驚くべき語りの技が生んだ息をのむ傑作！ ●2520円

僕はマゼランと旅した  
スチュアート・ダイベック  
柴田元幸訳



白水社 101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 ©価格税込  
<http://www.hakusuisha.co.jp> tel.03-3291-7811

□浅野智彦 編

## 検証・若者の変貌

失われた10年の後に 現在の若者  
叩きは果して妥当なのか。2520円

□小杉礼子・堀有喜衣 編

## キャリア教育と就業支援

フリーター・ニート対策の国際比較  
若者政策の最新報告。2415円

□M・トマセロ／大塚・中澤 他訳

## 心とことばの起源を探る

文化と認知 人間に特有の認知能力とは？進化の謎に迫る。3570円

※価格税込  
勁草書房 <http://www.keisoshobo.co.jp>

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

## ヤングアダルト図書総目録

2006年版発行！



中学校・高等学校・公共図書館  
選書利用率 No.1  
※朝の読書に最適

■巻頭エッセイや『朝の読書』  
実践校紹介の頁も充実。

ヤングアダルト（YA）とは、主に中学、高校生（13～19歳）を対象とした呼称です。本目録ではこの多感な世代にお薦めの本を紹介しています。

※書店様へご注文ください。＜頒価300円（税込）＞

### ヤングアダルト図書総目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内 電話 03-3266-9521

## ウッドハウス・コレクション

P・G・ウッドハウス／森村たまき・訳  
四六判・並製カバー

ウッドハウスのユーモア小説の中でも、最高に面白い（ジークス物）から傑作を厳選。ぐうたらなダメ男の若旦那パーティーと、天才執事のジークス。この名コンビとその他の奇人怪人たちがくり広げる、笑いが渦巻くドタバタ人間喜劇。

### ウースター家の掟

大好評ジークス・シリーズの第4弾!! 極北の理不尽美少女の無理難題を前に、またもやスープに漬かりつづけるパーティー。天才執事ジークスの今回のお手並みはいかに？ 本邦初訳。2310円

※好評既刊\*

比類なきジークス……2100円

よききた、ジークス……2310円

それゆけ、ジークス……2310円

\*続刊\*……でかした、ジークス!

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15【税込値】  
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

望月 清／著

## 1 変数の微分積分

A5判 2020円

物理の例やおもしろい計算例をとおして、  
高校数学とは一味ちがった微積分を学ぶ。

第2巻

科系で必要な数学を修得。

山本健一／著

## 線型代数

A5判 2520円

身近な素材から出発し、  
つまづきそうなところに  
配慮しながら、大学の理

高藤秀司・戸瀬信之・三松佳彦／編集

## シリーズ——《全9巻 刊行開始!》 理科系の数学入門

日本評論社 豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621  
<http://www.nippyo.co.jp> FAX03-3987-8590